

個別検診機関のがん検診チェックリスト調査結果について

青森県がん・生活習慣病対策課

2024(令和6)年12月2日

個別検診機関のがん検診チェックリスト調査結果について

- 調査対象 令和6年度に市町村からがんの個別検診を受託している325医療機関
- 調査期間 令和6年9月2日～令和6年10月4日
- 回収率 78.4%(258医療機関から回答)
- 特記事項 令和6年9月2日付けで、チェックリストの項目を一部改訂した(表現の修正)

<チェックリスト項目毎の結果>

項 目	回答割合 (括弧内はR5年度)
1 「青森県におけるがん検診事業の実施に関する要綱」について、ご覧になりましたか。	<p>「はい」 86.0% (83.9%) 「いいえ」 14.1% (16.1%)</p> <p>→ 要綱の認知度は上昇しているが、まだ認識していない医療機関が一定割合ある。</p>
2 がん検診の際、検査のほかに問診も実施していますか。	<p>「はい」 93.8% (89.5%) 「いいえ」 6.3% (10.5%)</p> <p>→ 昨年度よりも、有症状者にごがん検診が実施されている可能性が低下した。</p>
3 がん検診を実施する際の問診において、検診の対象とする臓器のがんが疑われる症状があった場合は、検診は実施せず、診療の対象であることを説明したうえで、診療を実施していますか。 ※がんが疑われる症状がある方ががん検診受診は不適切です。	<p>「はい」 84.3% (74.0%) 「いいえ」 15.7% (26.0%)</p> <p>→ 昨年度よりも、有症状者にごがん検診が実施されている可能性が低下した。</p>
4 検診の対象とする臓器について、定期通院中のがん、もしくはがんではないが診療の対象となる所見がある患者の経過観察として、がん検診を実施していますか。(例：潰瘍性大腸炎の患者に対する便潜血検査…等) ※定期通院中のがん、もしくはがんではないが診療の対象となる所見がある患者の経過観察としてのがん検診は不適切です。	<p>「はい」 38.2% (61.8%) 「いいえ」 61.8% (38.2%)</p> <p>→ 診療で見べき対象者とがん検診の対象者の選別が適切に実施されている可能性が高まったが、診療としてがん検診を実施している医療機関が、一定割合ある。</p>

個別検診機関のがん検診チェックリスト調査結果について

項目	回答割合（括弧内はR5年度）
5 がん検診を実施する前に、「がん検診の結果、要精密検査となった場合は、必ず精密検査を受ける必要があること」を説明していますか。	「はい」90.6%(96.5%) 「いいえ」9.4%(3.5%) → 昨年度よりも精密検査受診の必要性を説明している医療機関が減少した。
6 検査結果は、少なくとも5年間は保存していますか。	「はい」98.8%(98.4%) 「いいえ」1.2%(1.6%) → 昨年度とほぼ同等。
7 【胃がん検診(内視鏡)のみ実施している場合は、回答不要です】 検診に伴う読影や検体の検査は、どこで行っていますか。	「すべて自施設」23.2%(18.3%) 「それ以外」76.8%(81.7%)
8 【胃がん検診(エックス線)、胃がん検診(内視鏡)、肺がん検診、乳がん検診のうち、1つ以上実施している場合にご回答ください】 読影は必ず二重読影により実施していますか。 ※【】内のがん検診全てで二重読影を実施している場合は「はい」、それ以外は「いいえ」	「はい」66.0%(60.6%) 「いいえ」34.0%(39.4%) → 昨年度よりも二重読影を実施している医療機関の割合が増加したものの、二重読影を実施していない医療機関が一定割合ある。
9 自施設のプロセス指標（要精検率・精検受診率・がん発見率・陽性反応適中度）について、直近（調査年度の1～2年前の）数値を把握していますか。	「はい」37.9%(20.2%) 「いいえ」62.1%(79.8%) → R3年度の医療機関毎のプロセス指標は昨年度末に提供済だが、確認されていない可能性が高いため、その周知について工夫が必要。
10 今後、県や医師会、弘前大学等のがん検診に係る講習会等を実施することがあれば参加してみたいですか。	「はい」73.1%(69.3%) 「いいえ」26.9%(30.7%)

●今年度の取組

- ・国指針の改正に伴い、県要綱を改正する。その後、関係機関の協力を得て、県要綱の周知を図る。
- ・国の指針を遵守したがん検診の重要性について、メディア等を活用した医療機関や県民への周知を検討する。

●今後の対応

- ・チェックリストの回収率は年々向上してきている。今後は「がん検診精度管理調査票(検診機関用)」の実施について、関係機関と検討するとともに、医療機関向けの研修会等により、要綱の浸透を図ることで、科学的根拠に基づくがん検診を推進していく。